

■ 開設年度		■ 開講部局	
2020		共通教育	
■ 科目名			
現代企業経営論			
■ 英語科目名			
Management of Modern Corporation			
■ 前後期	■ 開講区分	■ 科目形態	■ 単位数
前期	毎週	講義	2
■ (2 8 年度以降入学生) 中分類		■ (2 8 年度以降入学生) 小分類	
教養教育科目(教養基礎科目)		人文社会科学分野 (選択科目)	
■ (2 5 年度以降入学生) 中分類		■ (2 5 年度以降入学生) 小分類	
b. 知力：人文・社会科学		11. 経済・経営を学ぶ	
■ (2 4 年度以前入学生) 大区分		■ (2 4 年度以前入学生) 中区分	
教養科目		分野2	
■ 受講学部学科			
全学部			
■ 担当教員		■ 担当教員所属	
大前慶和		共通教育センター	
■ 連絡先 (TEL)		■ 連絡先 (MAIL)	
099-285-3583		omae@km.kagoshima-u.ac.jp	
■ オフィスアワー (授業時間外の対応)			
▼特に設けないので、メールでアポを取って欲しい。			
■ 共同担当教員			
なし			
■ アクティブ・ラーニング			
1. グループワーク; 5. 学習の振り返り;			
■ アクティブ・ラーニング (「その他」の内容)			
■ アクティブ・ラーニング (授業回数)			
1 5 回中 1 5 回			
■ 理念 重要視する教育目標			
3 . 論理的思考 1) 幅広い視野から課題の解決策を考えることができる			
■ 理念 教育目標			
1 . 自己理解 1) 自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる			
■ 理念 教育目標			
7 . 他者との協働 2) 他者と協力して課題の解決を図ることができる			
■ 理念 教育目標			
6 . 実践 2) 課題の解決に向けて主体的に行動できる			
■ 授業概要 (目的・内容・方法)			
▼経営学は、組織マネジメントを研究対象とする学問で、経済学とは質的に異なる学問分野である。まず経営学の基本的・伝統的な理論を紹介する。続いて、近年の組織マネジメント理論を概観し、現代が変革の時代であることを解説する。最後に、理論と実践との融合を図るために、授業担当者の実践としての共同研究を紹介する。なお、ホスピタリティについても取り上げ、東京ディズニーリゾートを事例として用いる。			
▼ほとんどの授業は板書によって進めるが、板書は口頭での説明を補助するためのものであり、そのまま書き写すことは全く想定していない。ノートをとる技術の向上が求められる。最後の3回の授業では、パワーポイントを用いる (スライド資料の配付は行わない) 。ノートをとる技術を高めておく必要性がさらに高まる。			
▼毎回の授業に関するキーワードを manaba に蓄積してもらおう。さらに、できる限り各回の授業終盤でグループディスカッションを行う。グループディスカッションの成果として質問事項があればその場で表明してもらい、授業時間内に回答するようにしたい。なお、第15回授業はセミナー形式とし、グループワークを多用する。			
■ 学習目標			
▼経営学の基礎理論に関して説明することができる。			
▼経営学の基礎理論を応用して、組織的行動について検討できるようになる。			
▼他の受講生と協働して、授業内容を振り返り、質問できるようになる。			

▼経営学の基礎理論に基づき、自身の置かれた現実の環境において、マネジメントを実践できるようになる。ないしは、現実の組織において今日求められている組織的行動がとれるようになる。

■授業計画・試験の有無（１６回〔初修語は３１回〕に分け、回数、授業内容、自学自習等）

- １．経営学とはどのような学問か（授業概要と結論の紹介）
- ２．新古典派経済学の生産者理論と経済人の仮説
- ３．伝統的管理論（１）
- ４．伝統的管理論（２）
- ５．人間関係論とリーダーシップ
- ６．近代組織論における限定合理性の考え方
- ７．行動科学、特にＹ理論の理解
- ８．コンティンジェンシー理論と経営戦略論の登場
- ９．経営戦略論の展開（分析的戦略）
- １０．企業文化の両側面（成功体験の功罪）
- １１．変革の時代における新しい企業経営のあり方
- １２．Whatの経営とHowの経営（日本の経営の特質）
- １３．Whatの経営実現に向けた創発的戦略（パワーポイントによる授業）
- １４．共同研究事例紹介（パワーポイントによる授業）
- １５．TDRを活用したセミナー（パワーポイントによる授業・グループディスカッションを多様）
- １６．期末試験

■授業外学習(予習・復習)

▼テキストを使用しないため、予習は特に求めない。しかし、徹底した復習を求める。単に板書をノートに書き写すような態度に終始するのではなく、授業に真剣に参加し、復習時に自分だけのノートをつくり上げること。

▼復習時に不明点がある場合は、メールでアボを取り、質問あるいは議論をするために研究室を訪ねてきて欲しい。こうした行動も、授業外学習の一環である。

■受講要件

- ▼意欲的に経営学を学ぶ姿勢を持っていること。
- ▼授業に能動的に参加すること。
- ▼シラバスの内容を熟知していること。

■成績の評価基準

- ▼穴埋め記号問題および論述問題からなる期末試験を実施する（７０％）。持込は不可とする。出題内容は基礎的なレベルであり、復習を十分行い、自分だけのノートをつくり上げる姿勢を持っていれば、決して困難なものではない。
- ▼授業時間内に小レポートを３回課す（合計で３０％）。復習の態度を測定するほか、当日の授業内容に関する出題もあり得る。manaba を利用して出題し、回答してもらう。

■教科書

▼使用しない

■地域志向科目の区分（平成２７年度入学生用）

■参考書

▼指定しない

■地域志向科目の区分（平成２８年度以降入学生用）

■実務経験のある教員による実践的授業

■その他

▼毎回の授業内容は、必ずしも計画通りに進むとは限らない。大きな流れを変えることはないが、受講者の理解、講義時間の都合などから、多少の前後や変更が想定される。